

# グリーン四国

四国森林管理局



四国山の日

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

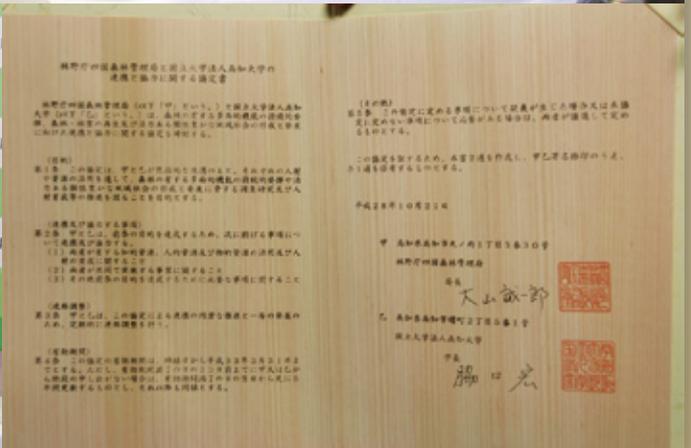
ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

No.1160 2016年11月号

## 四国森林管理局・高知大学連携協定締結式

平成28年10月21日、学部を超えた分野での連携を進めるために、  
高知大学と協定を締結しました。 【詳細は2頁】



# 高知大学との連携協定について

## 締結式を実施

〔四国森林管理局〕



大山局長挨拶

一〇月二一日、四国森林管理局と高知大学との間で「連携と協力に関する協定」を締結しました。

四国森林管理局と高知大学は、昨年七月に農学部（現農林海洋科学部）と連携協定を締結していました。その後、理学部等と連携した合同シンポジウムの開催や



人文社会学部等と連携した

森林鉄道の日本遺産といった、学部を超えた分野での連携が進むこととなりました。

こうしたことから、協定の範囲を高知大学の全学部に発展的に拡大することとしました。

協定締結後、大山局長から「国民の森林として地域に貢献していくことが重要なミッション。今回の締結によりますます地域に協力

していく。」と挨拶がありました。



脇口学長挨拶

また、脇口学長からは

「高知大学は法人化して以来、環境・人類・共生をテーマに教育組織改革を行って

きた。今後は、我々の持っている知識と技術と研究力を発揮し、この協定の遂行及び実践に向けてまい進する。」と挨拶がありました。

その後、記者からの「今回新たに協定を結ぶことでどのような効果があるのか」の問いに対して、「魚

梁瀬森林鉄道のように、森林だけを捉えるのではなく、人を含めた社会全体として捉えることにより歴史の解明・保存に貢献でき、地域の活性化につながる。」と脇口学長が考えを述べました。

さらに、「森林管理局職員の高知大学の講義や実習

への派遣について、高知大学のメリットは。」の問いに対しては、「大学教員のみで社会が求めている人材を育成することは非常に困難である。しかし社会人の教育力により学生のモチベーションが上がる。学生たちが学び、そしてそれを社会に生かしてほしい。」

と期待を述べました。締結式終了後、これまでの協定の成果として、「森林整備事業における（複数年契約）の取組について」当局の福田収穫係長より事業内容の説明があり、高知大学の松本講師より、この取組の現状と課題について報告がありました。

続けて、新たなテーマとして取り組んでいる「魚梁瀬森林鉄道と暮らし」の研究についても高知大学の赤池コーディネーターより報告がありました。

今後も、高知大学と幅広い分野において連携した取組を積極的に進めていきます。

当局員より事業説明



松本講師より報告



## 本郷国有林野部長が来高

《四国森林管理局》



一〇月一七日、一八日に本郷国有林野部長が来高し、職員への訓示と現場の視察を行いましたので訓示の内容と視察の概要を紹介いたします。

く国有林野部長訓示く  
国有林は、特別会計から一般会計に移行したことから、もはや組織の内側ではなく外へ目を向けると共に、外からどのように見られているのかを意識すると、地域に国有林があつて

良かったと言ってもらえるような国有林であるようにとの内容でした。

特に、後者の部分については、九月の北海道に台風



低コスト再造林試験地の説明

が直撃した際、治山事業地での説明

日高地区で午前一時に国道の橋梁の流失や林道の崩壊により孤立集落が発生しました。



したが、日頃より地元自治体と連携を取っていた日高北部署が速やかに林道の復旧を行い、午前四時には孤立を解消したという事例を示しながら、日常からの地元自治体との繋がることだけでなく、実際に地元自治体に貢献していく事の重要性を職員に求めました。

く現場視察く  
四万十署管内と徳島署管内で視察を行いました。

四万十署管内では、四万十森林組合でヒノキの集材や家具の製造を視察し、ブランド価値のある家具生産のため様々な取組について説明を受けた他、四万十署管内におけるシカ被害防止に向けた低コスト再造林試験地では、森林技術センターが試験的に実施しているシカ防護柵や各苗木に施した食害対策のガードの効果やコスト、成長に及ぼす

影響等について意見交換を行いました。

また、ドローンのデモフライトも行い、現場での利用の可能性についても確認して頂きました。

徳島署管内では、西山地区の大規模な治山事業地の視察で、ドローンによる空撮映像も見ながら現場の状況の説明を受けた後、他の地域と比較して移動速度が速いという特徴のある地すべり地帯での治山工事を実施する際の工夫や苦労等について意見交換を行いました。

四国森林管理局としましては、今後とも国有林の使命を果たしつつ、地域に貢

献する国有林を目指した取組を一層進めていきたいと

考えています。

### 三嶺で関係機関が連携しシカ捕獲を実施



一〇月二日、香美市物部町のシカ被害が深刻な三嶺山系において、関係機関（四国森林管理局、高知県、香美市、香美猟友会、山岳団体、自衛隊等）約一〇〇名の連携により、捕獲を実施し一〇頭のシカを捕獲しました。

この三嶺山系は、多くの登山者が訪れる景観豊かな地域ですが、約一〇年前か

ら、シカの急激な生息数の増加により、ササ等の下層植生や樹齢二〇〇年以上のモミ等の樹木が枯死するなど、深刻なシカ被害が発生し、貴重な自然が失われている状況でした。

この失われた自然を取り戻すため、ボランティアによるシカ防護ネット等の設置を実施していますが、防護するにも限界があり、シ

カの生息頭数を減らすことが課題でした。

このような状況の中、高知県や香美市による銃でのシカ捕獲、高知中部署による囲いワナでの捕獲を実施してきましたが、三嶺地区には、これらの方法での捕獲が困難なエリアがあり、このエリアがシカの逃げ込み場、繁殖地等となり、効果的な捕獲をする上で大きな障害になっていました。

このため、平成二五年度に關係機関が連携して、このエリアでの捕獲を実施する実行委員会を立ち上げ、平成二八年度（高知県特定

出発前の打ち合わせ



鳥獣保護管理計画の終期）までを実施期間とし、今回まで三回目の捕獲となりました。初回の平成二六年度は四頭、二回目の昨年度は六頭の成果でしたが、猟友会の意見による実施方法等の検討を行い、今回は一〇頭と過去最高の捕獲となりました。

した。

これまで関係機関が連携して三回の捕獲を実施出来たことは、一般登山者や県民へのシカ対策の必要性の啓発、民国連携の取組によるシカ被害対策に対する共通認識の醸成ができ、捕獲頭数の数字では表せない部分が非常に大きいと考えています。



配置場所へ移動

## 和歌山県庁が現場調査



一〇月一日、和歌山県農林水産部森林整備課から五名が来局され、四国森林管理局の伐採から植栽までの一貫作業システムや効率的な路網整備等についての取組など、先進的事例の調査として現地調査を受け入れました。

ちなみに和歌山県はプロポーザル方式による立木販売から下刈までの契約の実施や森林資源の循環利用や林業成長産業化の早期実現を目指し森林を経済林と環

境林を区分し、支援事業を強化しようとしているなど先進的な取組を実施している県です。

今回四国局で案内した箇所は、嶺北森林管理署管内の誘導伐及びコンテナ苗植栽箇所と保育間伐活用型の箇所です。

誘導伐とコンテナ苗植栽箇所はすでに事業が終了している箇所ではありますが、平成二六年当時、誘導伐の実行状況に合わせ枝条存置による地拵と

コンテナ苗による植栽を追加発注し、現在でいう一括発注のような取組で事業の低コスト化を図った箇所です。

現地では署長による管内概要説明と現地の説明、管轄の首席森林官からは、事業上の問題点も含めた考察が説明されました。

和歌山県の職員からは枝



造林調査地での説明

条処理の取り扱いやシカ対策の必要性、コンテナ苗の需給状況などの質問があり問題点の共有ができたところでした。

保育間伐活用型の箇所では、事業体の川井木材より作業システム等の説明をしていただきました。

この現場では、タワーヤーダとウッドライナー、ハーベスタ等の高性能林業機械を導入しており、先進的な事業が行われています。

日本でも導入台数の少ない高性能林業機械であり、その高性能林業機械を効率よく使用する作業システムとして、興味深く質問等を

されていきました。

最後に、今回は和歌山県に来ていただきましたが、受け身だけでなく積極的な発信として今後も四国森林管理局の取組を広く情報発信することにより相互で経験・学習しながら林業技術の発展を図ることが重要であると感じました。



生産調査地での説明

## 第二回無人航空機の講習会実施

《企画調整課》



五月の第一回無人航空機

講習会では、三六名を受講者登録しましたが、その他の職員から災害調査や森林調査などに無人航空機を使用したいとの要望が出されていきましたので、一〇月一二日、嶺北森林管理署会議室で改正航空法の規制内容や機材の仕組み等の講義および、早明浦ダム下流河川敷において無人航空機の操作方法を習熟するため、第二回無人航空機の講習会を実施しました。

無人航空機の飛行準備



当日は、第一回と同じ株

式会社竹谷商事（本社・大阪市）の山本課長を講師として、森林管理局・署の職員五二名が参加しました。

午前中の座学では、無人航空機の飛行ルールの徹底や無人航空機を飛行させるための準備、注意事項について、午後からは、早明浦ダム下流河川敷に移動し、五機の無人航空機で操作方法を学習しました。

今回の講習会で

ドローンを初めて触った者が殆んどで、「思ってた以上に操縦は簡単だった。」「もっと練習して上手になり縦できるようになりたい。」「これから、いろいろな業務に利用していきたい。」などの意見が出されていきました。

今回の講習で、全職員の二割が無人航空機の操縦が可能となった。今後も四国森林管理局管内の各種森林調査や災害状況把握等をはじめとして様々な分野に活用するとともに、技術の発信に努めたい。



操作方法学習状況

# 各地のたより



二校で年間を通した森林環境教育(空飛ぶ種子)を実施  
(四万十ふれあい推進センター)

九月一二日に松野町立松

野西小学校四年生一八名、

九月二九日に宿毛市立小筑

紫小学校五年生一〇名を対

象に、両校とも今年度第三

回目の森林環境教育として

「空飛ぶ種子」を実施しま

した。

今回は、草や木の種子の

特徴や樹木が様々な方法で

種子を散布する方法について

ての学習です。

風を利用し運ばれる種子

もあれば、甘い果実で覆わ

れた種子は、動物に食べら

れてフンと一緒に散布され

ます。また、水に浮いて流



空飛ぶ種子学習の様子

種子模型作製の様子



れて、散布する種子もあり

ます。さやがはじけたり、

ドングリのように転がって

散布する植物など、植物が

さまざまな方法で種子を散

布することを説明しました。

その後、いろいろな種子

の実物を見せて説明し、そ

のなかで、「カエデ」「テイ

カカズラ」「アルソミトラ」

(東南アジア産のウリ科の

植物)の風や翼を使って飛

ぶ種子が、実際にどのよう

に飛ぶかを実物を使って観

察しました。大きな翼を持

つ種子「アルソミトラ」が

グライダーのように飛ぶ様

子に「オー」と驚いていま



種子模型を飛ばしてみよう

種子実験装置で飛ばしてみよう



した。

次に、「ニワウルシ」「ラ

ワン」「マツ」「アルソミト

ラ」の種子の模型をステレ

ンシートや色紙等を使って

作りました。

最後に、教室や体育館な

どで種子模型を飛ばすと、

くるくると回りながら落ち

てくる様子や、ふわっと滑空する様子が「おもしろい」と何度もみんなで飛ばしっこをしていました。

児童から終わりの挨拶の中で、草や木が種をまく方法に、「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力で飛ばす」という大きく分けて四つの方法があることがわかりました。また、色々な種子があつて色々な飛び方があることが分かりましたと感想がありました。

今回の学習等を通じて、児童の草や木、自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。



九月一三日、奈良ノ木国有林保育間伐（活用型）事業請負現場（特定香川県森連・香川西部森林組合素材生産共同事業体）において、香川労働局、丸亀労働基準監督署の担当官と合同で安全パトロールを実施しました。

所轄する労働基準監督署との合同安全パトロールはほぼ毎年実施していますが、

今回は香川労働局から労働基準部長と健康安全課長も参加し、パトロールを行いました。

香川県における林業・木材産業における労働災害は、事業体数が少ないにもかかわらず昨年来二九件もの災害が発生しており、そ



安全点検の様子

の抑止が喫緊の課題となっております。

当日は、香川所から四国局管内で発生した請負事業体の災害事例をもとに、チェンソー、かかり木、

滑落等による災害が多発傾向にあることを説明したあと、安全パトロールを実施。香川労働局においては、林業の現場を直接視察する機会はありませんとのことで、雨上がりの中、プロセッサ

を使った造材作業等について熱心に点検、高性能林業機械が主役となって様変わりした林業の現場作業に驚

造林作業について点検



いた様子でした。

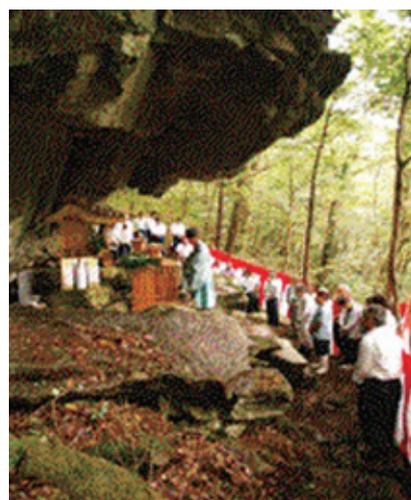
なお、労働局の労働基準部長は一〇月二五日の全国林材業労働災害防止大会において講演を行う予定になっていきます。



九月二〇日、愛媛森林管

理署の目黒森林事務所管内にある、目黒山山神宮の移設に伴い、安全祈願祭を行いました。昭和十一年に目黒斫伐事業所が発足した際、安全な事業実行のために目黒山二〇八五林班の岩屋に祠を設置していました。が、当時は林道等が開通しておらず利便性が悪かったため、昭和四八年に目黒林道起点に祠を移転しまし

目黒山山神宮での安全祈願



送会社等、様々な

関係者及び関係機関にご協力をいただき、岩屋への移設を行いました。

安全祈願祭で

戸峰林道とが接続し利便性が向上したこと、また祠が老朽化したことから、地元住民の方々より祠を修繕し、当初の場所に戻して欲しいとの要望がありました。

今回の修繕及び移設に際し、発起人である松野町在住の吉福文雄氏をはじめ、宇和島市在住の影平忠重氏、民間の林業事業体や運

送会社等、様々な関係者及び関係機関にご協力をいただき、岩屋への移設を行いました。

ける安全を祈願しました。

参加者からは、「とても立派な祠に修復されている。これを機により安全な作業を心がけたい。」といった声がかれました。

愛媛森林管理署では、今

後とも、労働災害の減少に向けて、関係機関や関係者と協力しながら取り組みたいと考えています。

代ノ川山山神宮及び御和霊神社の神官に祝詞を唱えていた

だき、参加者一同、安全に対する意識

を向上し、今後の

国有林野事業にお



一〇月四日、高松市塩江

町の鷹山国有林において「森林作業道作設技術現地検討会」を昨年に続き開催しました。

今回の現地検討会は、作業道作設技術のさらなるレベルアップを目指して、林野庁森林技術総合研修所林業機械化センターの加利屋

業務指導官と伊久間係員を

講師に招いて開催したもので、森林組合等の林業事業

体や県・市町職員等の総勢



修復された祠

四九名の参加者となりま  
した。

講師からは、「森林作業

道作設のポイント」と題し、

「基本的には軽四輪が通行

できる道づくりを考える。」

「工法や使える資材（石等）

等は地域や現場毎に違って

おり、それぞれに

あったやり方で考

えること。他の現

場でやっているこ

とが、この現場で

できるとは限らな

い。「線形を決め

るときには、まず

残す木を決める。」

等ポイントとなる

事項を具体的に説

明、また、これまでの失敗

事例や適正な作業道へ補正

する改修技術として「急勾

配の登坂路の縦断勾配は、

S字カーブを入れ距離（延

長）を長くして緩和する。」

等、ポールを手に身振り手

振りを交えた熱心かつ丁寧

なアドバイスに、参加者か

らは「凄くわかりやすくて

理解できた。」「あまり考え

たことなかったが、納得が

できた。」等の感想が寄せ

られました。

その後、オペレータをし

ている参加者に実際に機械

を操作してもらいながら、

表土の取り方や置き方、転

圧にあたっての注意点、さ

らには丸太を使ったアン

カー補強のやり方等につい

て詳細な指導をいただきま

した。

最後に、参加者から「こ

のような研修の機会は大変

貴重。どのようにすればこ

のような指導ができるよう

## 作業道作設の説明2



努めてほしい。林業機械

化センターも協力し、セ

ンターの研修に参加いた

だいて実際に機械を操作

することで技術を習得し

てほしい。」と回答、参加

者一同、技術向上の必要

性と経験を重ねる重要性

を改めて認識し、無事終

了しました。

当所では、今後ともこう

した機会を多く設けて、森

林作業道の作設技術のレベ

ルアップを図るとともに、

民国連携による共同施業に

についても推進していく考え

です。

## 作業道作設の説明1





一〇月八日、九日の二日間、「香り豊かな 香川のヒノキ」をテーマに「2016 ウッディフェスティバル」がサンメッセ香川を会場に開催され、香川森林管理事務所も参加しました。

今回で二九回目となるウッディフェスティバルは、香川県木材需要拡大協議会等が主催となって県産ヒノキの普及を目的に開催、製材加工センターや木造住宅設計士、工務店等

三〇以上の団体が出展し、新築やリフォーム、地震対策等、木材を使った建築に関する様々な相談はもとより、「親子木工ワークショップ」 「チップの海でショップ」 「チップの海で宝探し」 「ミニログハウス上棟式での餅投げ」 「丸太切り競争」 など盛りだくさんのイベントも行われ、



ケロケロカエルだよ

ハロウィン飾り製作中



二日間とも大勢の家族連れ等で賑わいました。

毎年参加している香川森林管理事務所では、森林づくりや木づかいの大切さを伝えるパネル展示やパンフレットを配布するとともに、技術普及課から応援をいただき、「クイズに答えればビンゴゲーム」や「木工

教室」を実施。ビンゴゲームでは賞品の「ジージーゼミ」や「ケロケロカエル」を手に入れようと開幕早々から大勢の親子連れがクイズにチャレンジし、長蛇の列になるなど、始終歓声が絶えない大盛況ぶりでした。また、木工教室でも

子どもたちが思い思いのハロウィン飾りに夢中となり、次から次へと個性豊かなハロウィン飾りができあがり、お母さん方からも「素敵！、さっそく飾ります。」と大好評でした。

香川所のブースには二日間で一三〇〇人を超える親子連れが訪れ、フェスの盛り上げに大いに貢献できたものと考えています。

また、クイズラリーの出題者としても参加、今年から山の日が制定されたことや「木づかい」の大切さを



秋の空とジージーゼミ

アピールしました。

香川県では、民有林もこれから本格的な伐期を迎えていくことから、当所では来年以降も盛り上げに協力していきたいと考えています。



一〇月一五日及び一六日の両日、久万高原町の恒例イベント「第四六回久万林業まつり」が同町の久万公園ほかで開催され、大勢の家族連れや観光客などで賑わいました。

参加者で賑わう当署ブース



このイベントは基幹産業の林業を広くPRしようと、町内の林業関係者らでつくる実行委員会が毎年開催し、今年は初日に町内の木材市場三カ所で優良材の市売りを開催したほか研究成果の紹介、町内の農林産物や加工食品などの販売が

ありました。

このイベントには、当署も毎年参加しており、今年も石鎚山系に生育する珍しい植物の写真パネルや大正時代の久万高原町内の国有林写真などを展示するとともに、主に小学生を対象とした間伐材



世界にひとつのマイプレート

を使用した昆虫の「木のプレートづくり」コーナーを設けた結果、二日目の昼すぎには用意していた約二〇〇組の材料キットがなくなるほどの大盛況ぶりでした。

屋外では、家族連れらに無料提供された町内産のスギ材を使い、親子

で協力して切り分けた木を丁寧に組み立て、日曜大工に汗を流す姿が見られ、多くの方が木材にふれあう貴重な機会になったと思います。

また、今年はまだ

つりの記念企画として、町内にある県森連久万山木材市場、(株)久万木材市場、久万広域森林組合久万市場の三原木市場が初の取組として共同販売会を開催しました。

当署からも委託販売契約している(株)久万木材市場に優良材のスギ約三〇立方m、ヒノキ一立方mを出品し主催者から感謝されるとともに、出品材の最高値は径級四四cm、長級八〇mのヒノキに立方m当たり一三万円を越える値段がつくなど地域のイベントに大いに貢献することが出来ました。

合同市の状況



当署としては、このような林業の活性化に繋がる行事には今後とも積極的に参加し、国有林のPRを行うとともに、たくさんの方に木に親しんでもらいたいと思います。



一〇月一七日、高松市内において、香川国有林等所在市町長有志協議会を管内の国有林野の所在する市町長等及び県・局署関係者一七名参加のもと開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携の強化を図り、地域における産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目的に年一回開催しているものです。

今年の有志協は、「民有

林と国有林が連携した地方再生の取組」をテーマとして、代表世話人である栗田まんのう町長の進行で議事が進められました。

会議では、管理局や当所から事業概要が説明された後、市町から地方再生への取組に等に関する意見や要望が出されました。



有志協議会の状況

まんのう町からは、林業、木材産業の振興を図り、定住を促進するために、町内の森林から生産かつ加工された町産材を使って住宅等を新築または増築する場

合に建築経費の一部として高二〇〇万円まで補助できるようにしたことや、また、町産材をふんだんに使った児童館を二カ所建設予定との紹介がありました。また、東かがわ市からは、近年シカの生息が確認され始めたので被害が確認されたら国有林の協力を願いたい、等の意見が出されました。

管理局や当所からは、各市町の取組に対し支援・連携を推進したい旨回答し、

有意義な意見交換が行われました。



一〇月一八日、一九日の二日間、飯野山国有林において、坂出市消防本部・香川県防災航空隊と合同で救急・救助訓練を実施しました。

この訓練は、坂出市消防本部が実施する本格的な山岳救助訓練に併せ、当所が合同訓練を要請し実現したもので、当所職員も二班に分かれて訓練に参加しました。

初日は、職員がスズメバチに頸部を刺され自己注射器を使用した想定、二日目は、職員が滑落事故に遭った想定で訓練を行いました。

同僚職員が一一九番通報、消防本部の隊員が現場に急行し応急手当等救護を行うとともに防災ヘリの出動要請、実際に防災ヘリに被災職員を収容し病院まで搬送して病院への引き継ぎ、と一連の訓練が行われましたが、隊員には全く訓練のシナリオが示されず現場で状況判断して臨機に対応する本番さながらの隊員の訓練に、参加した職員も緊張感を持って隊員

救護訓練の様子



と連携し真剣に取り組んでいました。

訓練後、連携体制等を確認した後、県防災航空隊長と当所所長による講習を行い訓練を終了しました。

国有林でも請負事業での災害はもとより、職員の滑落事故等が多発傾向にあります。一方、近年の登山ブー

ムを受けて香川県内でも山で転倒・滑落等によるケガや遭難が増えるなど、消防や防災ヘリの出動回数も年々増加傾向にあるのとことです。

今回の訓練では、登山者のみならず国有林野事業における労働災害など山間部での事故や災害において、救急隊との連携により、いかに迅速且つ適切に被災者を救護し医療機関に引き継ぐことの重要性について職員全員が再認識することができた貴重な体験となりました。

なお、県防災航空隊とは、今回の訓練を機に、より奥地の国有林でも合同救

助訓練を行うこととしていきます。

防災ヘリ収容の様子



池本所長による講習



愛媛国有林野等所在市町長有志協議会を開催  
 愛媛森林管理署  
 一〇月一九日、愛媛県武道館において、「愛媛国有林野等所在市町長有志協議会」を開催しました。

本協議会は地域社会と国有林野事業の連携の強化を図り、地域における産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目的に年一回開催しているものです。

会議には管内市町から河野久万高原町長、清水愛南町長をはじめ担当部課長等、川畑署長ほか署関

有志協議会の状況



係者、四国森林管理局から田口森林整備部長、松本計画課長、オブザーバーとして重松愛媛県森林局長が出席し、代表世話人である河野久万高原町長の議事進行により、四国森林管理局及び当署の事業概要、平成二九年度林

野庁予算概算要求の概要等が説明された後、各市町から国有林に対する意見や要望等が出されました。

各市町からの意見や要望として、久万高原町から林業担い手の確保のための安定的な事業の発注や低コスト化に関する技術開発と民間への普及が要望されるとともに、国有林材の安定供給システム販売やシカ被害対策の詳しい内容や保安林内の植栽本数削減、また剣山地区でのクマの生息状況についての質問等が出され、これらについて熱心な意見交換を行いました。当署としても市町からの

意見等を踏まえ、愛媛県内唯一の林野庁の優先機関として、より一層公益重視、民国連携を推進し、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。



一〇月二一日、奈半利小学校六年生一九名、保護者一三名、先生二名と、当署より、署長外六名で野根山街道散策を実施しました。この行事は、奈半利小学校が、三〇年以上前から「自然に親しむ体験」と「地域

の歴史学習」を目的に行っている行事で、当署も毎年参加しています。

野根山街道は、奈半利町から東洋町を尾根伝いに結ぶ山道で、一三二二年の「承久の乱」にて流刑となった土御門上皇が通られ、また、藩政時代には参勤交代の通行路、幕末には中岡慎太郎などの志士脱藩の道になるなど、多くの歴史を刻んで来た古道です。

今回は、宿屋スギ登山口から米ヶ岡生活体験学校ま

での約七kmのコースを歩きます。

宿屋スギでは、児童が手をつないで、幹周りを囲み、「大きいね〜」などと言いながら、その大きさをひしひしと実感しているよう



宿屋スギの大きさを実感する児童

した。

途中に、イノシシが作ったヌタ場に足をとられたり、石や枝につまづいたりしながらも、楽しく自然を満喫していたようです。

また、「宿屋スギ」や「笑い梅」等の名前の由来などの、地域の歴史などに興味を示していました。

下山後の解散式では、児童の代表より、「街道の途中には、急な坂道や、穴のあいたところで転びそうになったり、石畳のところでは、苔があつて滑りそうに

散策の感想を発表する児童



なったりしましたが、自然に触れる良い経験になりました。」などの感想が発表されました。当署としても、地域の児童や保護者の方が地元の自然や歴史、また、国有林に親しむ良い機会でもあり、

この先四〇年、五〇年と続けていけるような、奈半利小学校の伝統行事として協力していきたいと思う一日でした。



高知労働基準監督署と高知中部森林管理署及び嶺北森林管理署による連絡協議会を一〇月二四日に嶺北森林管理署管内の桑ノ川山国有林五林班において開催しました。

当日は、監督署から署長および安全衛生課長に参加

いただき、現場にて嶺北署長の開会挨拶後、監督署より管内労働災害発生状況等の説明を受け、午前中は森林環境保全整備事業（保育間伐【活用型】）、午後は治山工事（谷止工）と二箇所



保全整備事業パトロール

の現場パトロールと講評を行いました。パトロールでは、各事業の現場パトロールと講評を行いました。

継承がなされており、安全に対する「詰め」もすばらしく他の模範となる現場」とのお褒めの言葉をいただきました。

また、監督署からは「より安全にという視点で、現場の姿勢や雰囲気を見ている。私どもが点検に入った現場からは災害を起こさせ

治山事業パトロール



ないという姿勢で点検等を行っている。ご協力願います。」との協力要請がありました。

最後に高知中部署長より閉会の挨拶があり、今後とも連絡協議会を通じて、労働基準監督署と森林管理署が連携を図りながら森

林・林業の現場から労働災害を無くしていくことを確認し連絡協議会を終わりました。



この現地検討会は、一〇

月二七日、三好市と東三好町の林務担当者をはじめ、徳島県、森林整備センター徳島水源林整備事務所、事業体と国有林に隣接する民有林所有者など、四三名が参加しました。

今年度の生産事業地である落合国有林において、列

試験地での説明1



状間伐をテーマに開催しました。

この取組は、本年四月に地域の森林・林業の再生に向けた課題解決について、民国連携して取り組むことを目的として設置した「三好地区ケーススタディ会議」において、市町村

の林務担当者の経験不足等による技術者育成が懸念され、林業を観て学ぶ機会が必要との地域からの意見を踏まえ、当署が計画・実行したものです。

検討会では、伐採列幅、残存列幅などが異なる三つの試験地毎の

伐採率・量、作業工程などの説明の後、意見交換を行いました。

参加者からは、「低コスト林業を進める上で、列状間伐の定着は必要。」「それぞれの現場にマッチングした列状間伐があるのではないか。」「残存木をいかに傷

めないためには、伐採列を検討する段階で、それにあつた作業道の整備が重要なのではないか。」など、活発な意見交換がされました。

徳島署では、今回出された意見等を踏まえ、これからも列状間伐の拡大・普及に努めていきます。

試験地での説明2





平成 28 年 11 月 7 日（月）

四国国有林等所在市町村長連絡協議会

【四国森林管理局】

平成 28 年 11 月 10 日（木）

「シカ被害地での低コスト再造林」現地検討会

【高知県四万十町大正 コビ穴山国有林周辺】

平成 28 年 11 月 12 日（土）

保護林観察ツアー

【高知県高岡郡津野町 小筋畝山・不入山国有林】

平成 28 年 11 月 12 日（土）

寒蘭花の展示

【四国森林管理局 1 階 ふれあい館 9:00 ～ 16:00】

平成 28 年 11 月 14 日（月）～ 11 月 18 日（金）

会計実地検査

【四国森林管理局・徳島署・香川所・四万十署】

平成 28 年 11 月 28 日（月）～ 11 月 29 日（火）

第 2 回森林管理署長等会

【四国森林管理局】

平成 28 年 11 月 29 日（火）

発注者綱紀保持研修

【四国森林管理局】

平成 28 年 11 月 30 日（水）～ 12 月 2 日（金）

土木技術研修

【四国森林管理局】

